


※注意：このシートは横浜市の
ホームページ等で公開されます。

No. 35

まちづくりコーディネーター 登録シート（閲覧用）①

フリガナ	ハン チャンヒ			
氏名	韓 昌熹			
派遣希望区	<input checked="" type="checkbox"/> 市内全域 <input type="checkbox"/> (<input checked="" type="checkbox"/>)			
支援専門分野（注1）		支援専門分野の内容		
ルール又はプランづくり等	<input type="radio"/>	地域まちづくりプラン 地域まちづくりルール 地区計画 建築協定 景観計画 景観協定 まち普請事業 その他地域のまちづくりに関する計画		
市街地開発事業等		土地区画整理事業 市街地再開発事業		
防災まちづくり等		横浜市の制度を活用した地震火災対策 防災マップの作成・活用 多世代向け防災イベントの企画・運営 密集市街地の改善		
その他得意とする分野（複数選択可）		地域福祉 （高齢者・障がい者・子育て支援等） 防犯 水・緑・環境 歴史・文化・アート 空き家・空き地の活用 商店街活性化 狭あい道路整備 耐震改修 共同建替 コミュニティの再生 地域の活動拠点運営 地域公共交通 ICT・WEBの活用 その他（多文化共生）		
支援専門分野に関する支援の実績等	支援専門分野の内容・支援可能なテーマ	地区名	時期	支援内容等 ※ 支援の成果も含め、できるだけ具体的にお書きください。 (200文字以内かつ9行以内)
	コミュニティの再生、地域の活動拠点運営	緑区	2017～2018	廃校後放置されている旧小学校を地域住民の交流スペースに活用するため空間利用や運営の仕方を検討支援した。 ・旧〇〇小学校利用に関する検討・企画・地域交流スペース設計提案・ワークショップ企画・運営・まちづくりプランと連携する方法をアドバイス・大学との連携
	地域緑のまちづくり	緑区	2017～2018	緑区〇〇丁目を中心に、緑豊かな街並みをつくり、緑に関する活動を中心に地域交流を活性化する事業企画を支援した。 ・地域緑のまちづくり事業提案に関する企画支援 ・地域住民の参加を求めるイベント企画の支援 ・まち歩き企画運営 ・大学との連携

（注意）支援専門分野は、横浜市まちづくりコーディネーター等及びまちづくり支援団体の登録等に関する要綱の別表第1を参照してください。

※注意：このシートは横浜市の
ホームページ等で公開されます。

まちづくりコーディネーター 登録シート（閲覧用）②

支援専門分野に関する支援の実績等	支援専門分野の内容・支援可能なテーマ	地区名	時期	支援内容等 ※ 支援の成果も含め、できるだけ具体的にお書きください。 (200文字以内かつ9行以内)
	CT・WEBの活用	オンライン	2020～2021	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染予定と拡散防止の要請により、地域まちづくり活動を見直している横浜市 の活動団体に情報提供や議論のオンラインセミナーを企画/運営した。 ノーハウやアイデア共有 ・オンラインセミナー企画及びファシリテーターを実施した。
	多文化共生	神奈川県・緑区	2021～現在	<ul style="list-style-type: none"> 多文化共生のまちづくりのためのイベント企画や国際交流ラウンジの運営支援、事業企画した。 かながわ外国籍県民会議委員として、政策提言活動している。
	団体支援/市民協働による地域課題解決	横浜市	2022～現在	<ul style="list-style-type: none"> 横浜市市民協働推進センターで、分野横断、地域横断、組織横断で、地域/社会課題の取組を展開している。 市民団体や NPO 法人と共に年間10件以上の共創プロジェクトを立ち上げ/伴走し、継続的な活動基盤の構築を支援している。 市民団体と自治体との連携制度化にも貢献している。
<p>自身の考えるコーディネーターの役割とまちづくりのポイント（500文字以内）</p> <p>コーディネーターの役割とは、多様な主体のあいだに信頼と共感を育みながら、異なる価値観や立場を橋渡しすることにあると考えます。特にまちづくりにおいては、行政・市民・企業・大学などがそれぞれの論理で動いており、対話を通じて共通の目的や意味を見出すプロセスが不可欠です。コーディネーターはその過程で「翻訳者」として機能し、言葉にならない声や現場の違和感をすくい上げ、必要な関係性の土台を築く存在です。まちづくりのポイントは、目に見えるハード整備ではなく、「人と人との関係性」そのものを育てることにあると実感しています。一過性のイベントや制度だけではなく、地域の人びとが日常的に関われる「余白」や「居場所」をいかに生み出すかが重要です。そのためには、地域資源を再編集し、人材の成長とともに仕組みを進化させる視点が求められます。まちを「つくる」のではなく、「育てる」プロセスとして捉えることが、持続可能なまちづくりにつながると考えています。</p>				
<p>必要に応じて資料を A4 判 1 ページまで添付できます。</p>				

